

問 市内農地の行く末は？

答 持続可能な力強い農業経営支援を



高橋 八重典 議員 やとみ志政会



▲あいちの新米出荷式

○市街化調整区域内の農地について以下を問う。

問 農家の現状を踏まえ、行政として優良農地を守る定義は。

答〔市長〕 食物の大切な生産基盤であると共に、多面的機能を合わせ持つ重要な地域資源。

問 現状の兼業農家の農地をどう考えるか。

答〔建設部長〕 出来る限りの農地保全と、適正な手続きのもとでの農地転用もやむを得ない。

問 子ども達にどう備えてやるべきか。

答〔市長〕 農地中間管理事業や農地利用集積田滑化事業等での貸付などが考えられる。

問 直近の市内転用面積は。

答〔産業振興課長〕 令和3年度、約13ヘクタール。

問 農業振興課長 令和3年度、約13ヘクタール。

答〔建設部長〕 団体経営化の傾向にあり、スマート農業の導入などの経営多角化等新たな取組みが、持続可能な力強い農業経営の一つのあり方と考える。

問 鍋田干拓を名港の背後地利用として考えているのか。

答〔市長〕 地域全体に及ぶ大規模な土地利用転換構想はない。

問 守るべき農地へ具体的ななオプションは。

答 収益性の高い農産物の生産や販売などの支援と地産地消の推進を行い、守るべき農地の保全を図る。

問 農地利用の総括を。

答 地域産業として農業をしっかりと下支えし、持続可能な力強い農業の経営環境を築き上げ、「地域資源」を最大限有効に活用し守っていく。

問	市内縦貫道整備事業の完成は
答	目途が立っていない

○弥富市中央幹線について以下を問う。

問 3号及び4号の事業期間は。

答〔土木課長〕 3号は、平成20年度から26年度。4号は、平成20年度から令和元年度。

問 2号の一部区間が、令和2年度から工事が着工されているにも関わらず、未整備区間の路線決定がされていない理由は。

答〔建設部長〕 補償すべき物件が多く存在するため、再検討の必要性も考えており、現時点では、他に優先事業があり目途が立っていない。

問 この事業計画期間は。今年で何年になるか。

答〔土木課長〕 平成9年の概略設計から始まり、平成13年度の工事着手から今年で22年目。

問 路線をいつまでに決定し、完成はいつになるのか。

答〔建設部長〕 目途が立っていない。



▲鋳物工場付近（中央幹線の未整備区間）